町田宗助　議員

学校評議員制について
農業の振興について

問 懇話会の中で、学校の活性化に役立つとあるが、具体的にはどういったことか？　校長が推薦すると言うが、他地区から来る校長が、地域の人材がわかるのか？　年三回の評議員会の開催で、学校の実情がわかるのか？

教育長　学校教育の中で目標を立てる場合に、学校長が決めますよということに対して、地域の皆さんからこれも入れてほしいという、具体的な地域の声を聞く、これが評議員制の大きなメリットかと思う。三月までには全て学校の教育目標が設定されており地域の人達の意見も聞いているので、学校長が早めに地域の実体にふれれば問題はないのでは。評議員制度を置くことはできるが、実施は校長の責任に任せたい。

問 都市型農業や近代化農業というハイカラな呼び名とは裏腹に、都市近郊の農業のおかれている立場が非常に厳しく感じられる。町は都市型農業を言っているわりには、他市町村に比べ農業基盤の整備状況や施設が遅れているが、原因はどこにあるのか。

町長　農業は大変厳しい状況にある。都市化現象により、地価の上昇が大きな要因にあると思う。農業基盤整備については、補助率も高く、積極的に取り組みたいと考えているが、なかなか土地問題がうまくいかない。農業振興法の中で補助制度を導入した時には八年以内は他に転用できない。ある意味では障害になっているのでは。都市型農業を推進する中で、必ずしも土地基盤整備ではなく別の手法で振興が図れないか、農業所得、販路の問題、担い手、後継者育成の問題、これらのことをすべて引っくるめて相乗効果が現れる施策はないか、懇話会の検討結果もふまえて一定の方向つけをしたい。

産業課長　農業施設については、井戸を中心に二五パーセント補助を出している。パイプハウス等については申請がない。施設農業を進めて行かなければいけないが、農家の意識がなければできないのでは。

問 中城が取り入れている、平張ハウスでの三尺バナナの生産だが、『熱帯果樹生産モデル団地整備事業、県の1/2補助、防風施設、防鳥施設としてのハウス、四〇メートルの台風に耐えられる。値段坪六千円、農家もち三千円、生産額多い所で二五〇坪で九一万八千円』と、事例を出しながら、積極的に取り入れていく必要があると思うが。

産業課長　三尺バナナは農協の重点作物であり町も進めて行きたい。農業関係の国、県補助はたくさんあるが、いろいろな問題もあるので、農家、農協とも相談しながら、更なる検討を加え進めて行きたい。

城間義光　議員

執行体制の確立！
部長制の導入を！
自治体間交流による職員研修は！

問 行政需要が年々増加する中で、町長や助役は課長等との事務調整に追われていると思うが、事務の迅速化と執行体制の充実のためにも、類似町村で実施している部長制の導入について、町長の考えを伺う。

町長　過去に内部の組織機構改革の中で検討したが、厳しい財政状況で定数増による部長制の施行はできないと見送った経緯がある。

機構体制の問題、職員個々及び各部署における職務権限、責任の分担もふまえて今後対応すべきである。本町の財政、人口規模等から考えた時に部長制の必要性は痛感しており、継続して前向きに検討したい。

問 自治体間交流による職員研修について、どういう取り組みを考えているか伺いたい。

町長　平成十二年度初めて都留市に教育委員会から生涯学習関係の職員を派遣した。税務関係で本町と似通っている税の徴収率の良い南風原町と税務課職員の交流を実現させ、他市町村、隣接市の先進地も視野に入れ他の自治体の良さを吸収させ、積極的に取り組みたい。

環境保全の推進について

問 家電リサイクル法の施行に伴い家電四品目の処分有料化により、不法投棄が予想されますが、隣接市町村との連携も視野に入れた本町の対策を伺う。

健康衛生課長　四月からクリーン指導員を復活させ、監視パトロールを強化したい。また、不法投棄禁止の看板設置、不法投棄防止を広報等の活用による広報活動を行い、区長、事務担任者及び町民の皆さんの情報提供をお願いしたい。

公共下水道について

問 平成十四年度から一部供用とのことであるが、担当課はどこなのか、接続の際の工事費は試算で幾らになるのか伺う。

町長　都市計画課の下水道係で対応し、料金の徴収は水道課で水道料金と合併徴収する。

都市計画課長　接続費用は、概ね一軒当り三十万円であると考えている。

町政運営について

問 「文教のまち西原」の建設のための指針、例えばまちづくりのための理念を掲げたまちづくり基本条例の制定について、検討する必要がないか町長の見解を伺う。

町長　町行政の基本的な事項について、町民の意見を集約するときに大きな課題として抱える場合は、住民投票もあるべきと考えており、それらを網羅した条例制定は必要と考えており、今後前向きに検討したい。

宮城秀功　議員

安全で住みよい生活環境について

問 翁長・棚原コミュニティ道路の整備について、上原・棚原区画整理事業が進み子供達の通学路となっており、早めの整備を要望されて来ましたが今回は予算が付きましたが、その内容と工事の計画を伺いたい。

土木課長　歩道空間を大事にしたいので幅員10ｍ両方3・5ｍと3ｍの歩道交互に駐車帯を付けたい。

問 棚原五一番地から五三番地の間の道路整備の件は着工の期日待ちと言う事ですので取り下げます。

ゴミの最終処分場の決定についてを伺います。

問 今迄ゴミの最終処分場は中部にお世話になって来ていますが、今年からは南部地区に出資と言う事ですが四、五回程度の用地選定委員会で決めており、今地方分権の時代といわれ自治体の合併問題が出ている時にいいのかどうか教えて頂きたい。

町長　今迄中部の南商会に世話になって来たが平成十七年が限界であり、例の問題が発覚し今、倉浜さんに世話になっているが新しい処分場が必要になるので南部地区に世話になりたい。多少運営の問題があるが市町村合併問題も出ているがこれから具体的に検討される事であり関係はないと思う。

問 棚原の自宅前迷惑駐車について、前定例会でも質問したが課長の説明とはだいぶ違うのでお尋ねしたい。

総務課長　署員の駐車違反にはならない、道路が比較的に広く通行の邪魔にならない、との回答の仕方に対し、相談者からその回答の仕方が理解できないと話は来ているが、この件は我々の方から説明をして理解していただいたが、もう一度当事者と会って解決していく。

問 十二月の定例会以降学校でのいじめの問題はないか伺いたい。

学校教育課主幹　十二月以降小中学校でのいじめの報告はありません。

問 棚原の農道の整備について棚原の水道貯水池から後の農道は何年も放置され整備されてなく、今年になってある業者がこの農道を整備してありますが、地権者にも相談なく境界線もわからなくなり地権者は困っていますが町はどのように考えるか伺いたい。

健康衛生課長　この件に付きましては南部保健所とも連絡を取り、本人とも連絡し相談しますが道路の件も含め積極的に指導していきたい。

呉屋吉則　議員

中学生の体験学習及び小那覇マリンタウン線（町道）の工事計画について

問 平成十三年度から、中学二年生の体験学習を実施するために、一般会計予算に一〇〇万円補助金が計上されています。本町では初めてのことだと聞いています。なぜやるのか、その経緯と学習のねらい及び実施の方法について伺います。

教育長　児童生徒の心豊かでたくましく生きる力を育むには学校や家庭、地域社会がもっと連携しあって、そして温かい目で育てていこうという、地域ぐるみで子供たちを育成していきたいと考えております。

そのような折りに、県教育センターより要請を受けて、教育委員会と両中学校の先生方が全国に先駆けて兵庫県が平成十年度より、心の教育の一環としてトライアルウイークを行っている、体験学習の研修発表会に参加しました。その場で子供たちが生き生きと職場体験している実情を知り、本町でもこれを取り入れていきたいと思いました。総合学習の時間では、両中学校とも二年生については生き方について考えることにねらいを定めて進めております。

学校教育課主幹　総合学習の六〇時間のうち二八時間が地域に出掛けての体験学習になります。実施にあたっては公共機関を含め、関係団体、商工会等の協力を得まして、一〇〇から一五〇の事業所にご協力を頂き、生徒三名から五名を一事業所にお願いしたいと考えております。基本的には月曜から金曜日までの五日間行うことになります。教職員は毎日各事業所を分担して巡視することになりますが、二学年ＰＴＡを中心にして、保護者の方々にもボランティアとして引率及び巡視をお願いしたいと考えております。

問 小那覇マリンタウン線（町道）の工事計画については、県道三八号線の小那覇交差点より埋立地への進入道（長さ一キロメートル、幅員二〇メートル）になっており、国の補助事業により、平成十三年度から開始されることは町当局の熱意と地域住民の積極的な協力があったからだと思います。この道路はこれからの町道建設の手本になればと思い、次の事をお聞きしたい。舗装の色は黒以外がよいと思う。街路樹については沖縄の在来種（常緑樹、一種類）を植栽できないか。自転車用の通路の確保と歩道には点字ブロックの設置を望む。

土木課長　平成十三年度で設計に入りますので、樹木の選定については地域住民にも諮り、舗装の色についても今後検討していきたい。自転車道を兼用した歩道を造り、点字ブロックも採用していきたい。

こんな質問もしました。
小波津川の整備問題について